

### コロナ禍における海外コンサルタントの奮闘

国際委員会 氏家 寿之 | UJIIE Toshiyuki

#### はじめに

2019年12月頃、中国湖北省武漢市において原因不明の肺炎患者が発生し、2020年1月、その患者から新種のコロナウイルスが検出されたとの発表がありました。この原因不明の肺炎は「新型コロナウイルス感染症」と命名され、この感染症は瞬く間に世界に拡がり、2020年3月11日、WHOはパンデミックを宣言しました。日本では2020年4月7日、東京都などを対象に初めて緊急事態宣言が発令。2020年8月末現在、緊急事態宣言は解除されたものの新規感染者が確認される日々が続いています。

海外で活動していたコンサルタントにおいても、保健・医療体制が脆弱な現地での滞在を避け、JICAから海外渡航の見合わせや渡航者の早期帰国に係る文書が出されたこともあり、多くの方が帰国の途に就きました。一方、工事を継続した現場も少なくなく、現地に留まり対応を続けた人もいました。本稿では、国際委員会で集めたコロナ禍における海外コンサルタントの奮闘ぶりをご紹介します。

#### コロナ禍での対応状況

##### 直前の入国制限への対応

JICA 専門家として2020年2月12日よりサモア国、フィジー国およびキリバス国への渡航を予定していましたが、入国に際し新型コロナウイルスに感染している恐れがないことを示す医療機関発行の証明書の携行が求められ、渡航直前に受診し証明書の発行を受けました。しかし、サモア国では入国直前に外国人の入国制限が厳格化されて入国出来ず、急遽計画を変更してフィジー国で活動を開始。その後キリバス国への入国も制限され

てしまいました。そこで、フィジー国での活動内容を強化するように変更し、かつオンラインツールを活用してサモア国およびキリバス国の関係者との調整を行うなど工夫して、当初計画と同程度の成果が得られるよう努めました（大洋州：人材能力向上プロジェクト、JICA）。

##### 長時間かけての帰国

バングラデシュ国では3月に入り新型コロナウイルス感染者が確認されましたが、政府の新型コロナウイルス感染拡大予防措置を受けてプロジェクトは一時中断することになり、コンサルタントは数週間に渡り宿泊先での待機を強いられました。その後、唯一運航していた中国南方航空/全日空（ダッカ～広州～成田）にて3月26日に帰国を試みましたが、ダッカ～広州便は満席で、日本人8名、韓国人10名、バングラデシュ人1名、残りは全て中国人。機内では搭乗時1回、食事後1回の計2回の検温が実施されました。広州空港に着陸後は、感染防止衣を着た空港検疫官が機内に入り感染が疑われる乗客の検温を実施しました（写真1）。しかし、乗客はターミナルへの移動を許可されず、約5時間もその場で待機させられました。その後の乗り継ぎ便の遅れも重なりかなりの時間を要しましたが、無事帰国することが出来ました。その後、バングラデシュ国からの邦人帰国に対しては、チャーター便が出されました。（バングラデシュ国地下鉄建設事業、円借款）

##### 外国籍社員の入国拒否

2020年1月31日、日本政府は、入国申請前14日以内に中国湖北省に滞在歴のある全ての外国人、湖北省発効の中国旅券所持者の入国禁止を発表しました。年明けより約1ヶ月の予定で中国に出張していた中国籍のコンサルタントは、湖北省発行の旅券所有者であったこと



写真1 空港検疫官による機内での検査

から2月以降日本に入国することができず、中国滞在を余儀なくされました。4月になり、“滞在先の国・地域が入国拒否の対象地域となる前に当該地域に再入国許可により出国した「永住者」、「日本人の配偶者等」、「永住者の配偶者等」または「定住者」の在留資格を有する外国人は特段の事情があるものとして再入国を認める”との発表があり、当該コンサルタントは日本での永住権を有していたため、ようやく帰国できることになりました。ただし、減便等の影響でなかなか航空券が確保できず、結局、6月中旬に半年ぶりに帰国を果たしました（中国水環境改善案件、中国地方政府）。

##### 遠隔からの施工監理の継続

本事業は、バングラデシュ国のファスト・トラック事業の一つということで、政府の臨時休業命令にもかかわらず業務継続の特別許可を得て2020年4月6日に着工し

ました。しかし感染者の急増や脆弱な医療体制を考慮して、4月末に日本人コンサルタント全員がチャーター便で帰国しました。帰国後は2週間の自宅待機となりましたが、現場は止まることなく動いていたためGW中にもかかわらず在宅勤務で施工業者から上がってくる施工図や書類のチェックと承認を「クラウド文書管理システム」で実施しました。その後も、オンライン会議やE-メールで現場とリアルタイムで連絡をとりながら施工監理業務を継続しています（写真2）。本事業の施主は議論好きで妥協を許さないエンジニアが多く、3時間の時差があるため、時には夜に入ってから協議開始ということもあります。一方、現場では施工業者のスタッフの中に新型コロナウイルス感染者が確認されたため、感染が疑われるスタッフの隔離や作業員全員に対するPCR検査の実施など、現場内の感染拡大を最小に留める対応も継続しています。現在は再渡航を準備しつつ久しぶりの日本で家族と過ごす時間を楽しんでいます（バングラデシュ国空港拡張事業、円借款）。

#### おわりに

社会へ大きな影響を及ぼしている新型コロナウイルス感染症ですが、我々コンサルタントの海外での活動にも大きな影響が出ました。本稿を書いている段階では、海外の一部の国では感染拡大のスピードが鈍化したなどとの報道があるものの、多くの国では感染拡大の状況が続いています。なかなか収束の気配がみられませんが、本稿が出る頃には少しでも収束に向かっていくことを切に願う次第です。



写真2 オンライン会議システムを使用した打合わせ（ダッカ～東京）